



## 毎月開催される木材市で 地元良質材の利用拡大に貢献

毎月15日前後に木材市を開催している、中蒲みどり森林組合。ちょうど取材に訪れた日は、年に一度の「国産優良材展示特別市」と重なり、紅白幕が飾られた会場には多くの会員たちで賑わっていた。こちらの森林組合が木材市を開催したのは、まだ村松町森林組合連合会が主催する木材市は新潟市と上越市の2ヶ所のみの開催で、五泉地区はその中間地点であったことから市場に参入。現在も木材市は森林整備や植栽などの組合の事業の中でも最も大きな割合を占めている。木材市の開催によって組合内で生産した木材を市で直接、販売できる上、搬出間伐の依頼があった場合も伐採から販売まで一括で引き受けることができるからだ。何より地元の良質材の特性を見極め、信頼している業者に引き渡す役割を担うことは林業に関わる者として大きな喜びといふ。組合では、この春(平成24年4月)、10代の新入職員が2名就職することをきっかけに、新しい林業のあり方を考え、これまで以上に市場を活気づける木材市の開催を目指す。

緑の扱い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌  
**Niigata Forestry Magazine**  
林業事業体レポート File04

# なかかん 中蒲みどり森林組合 (五泉市)



④新潟市や上越市の木材市は競り方式だが、こちらでは開催当初から入札方式で行われる。気に入った木材の番号に単価を記入した入札書を入れる ⑤はい積みされた木材。メインはスギだが、マツやサクラもある。それぞれ節や色、傷、腐れなど、買ひ方は細部まで材の良し悪しを吟味する ⑥取材した月の木材市は、年に一度の「国産優良材展示特別市」も兼ねており、通常開催される木材市よりも賑やかに行われた



①現場を案内してくれた桐生要一さんと森林技術員の皆さん。高性能林業機械を活用し、現場では常に3~4人で仕事を進めている ②伐倒方向を決めてから、受け口の位置や形をイメージしてチェーンソーで伐っていく ③安全に、確実に、伐倒するために、追い口に安全クサビを打つ

Kiryu Yoichi

Oyamatsu Toshinori



桐生 要一さん

年齢: 45歳

林業経験: 25年



親松 敏教さん

年齢: 35歳

林業経験: 12年

## 緑の担い手

良い材に出会う楽しみ

～大自然の中で、プロ意識を持つて働く人たち～

自分が伐採・集材した木材が

市場に出るまでの流通を見届けられるのは

木材市を主催する組合ならではの魅力。

期間雇用も含めて、現在、森林技術員は17名。

現場では作業効率のアップを図り

新しく高性能林業機械ザウルスを導入するほか、

二人の若手新人社員の活躍にも期待が高まる。

匠の仕事を引き継ぎたい



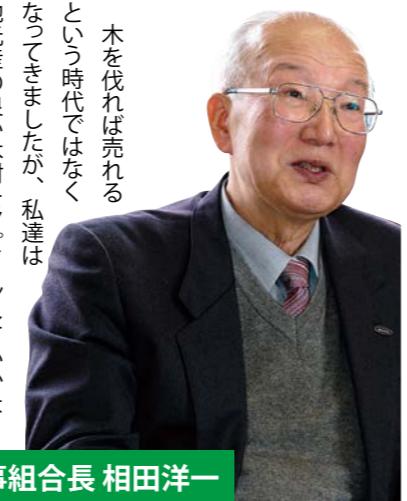
## 【事業体Data】



## 中蒲みどり森林組合

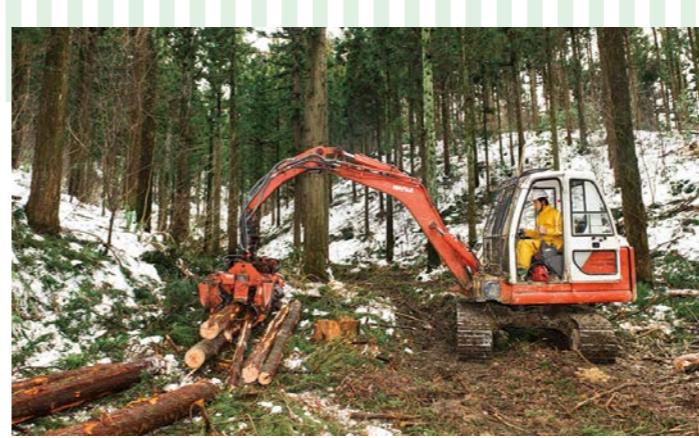
住所／五泉市村松工業団地2丁目1566番地2  
電話／0250-58-7824 設立／平成12年(合併)  
資本金／3700万円 従業員数／24人  
勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／五泉市  
主な従事業務内容／素材生産、造林、木材共販

## 【事業主コメント】



木を伐れば売れる  
という時代ではなく  
なってきましたが、私達は  
地元産の良い木材をアピールしていくな  
ければなりません。木材市は会員制で一  
般の方が材を落札することはできません  
が、材を見てもらいたいので一般の方に  
も公開しています。新年度採用した新人  
二人には、まずは現場での厳しい仕事を  
体験して、現状を知つてもらつた上で、  
彼らが希望を持って働いていけるように、  
私たちも林業に一生懸命取り組んでいき  
たいと思います。

中蒲みどり森林組合 代表理事組合長 相田洋一



②枝払いと玉切りを専門に行うプロセッサ。材をつかむグラップル、枝払い用のカッター、材送り装置のフィードローラー、玉切り用のチェーンソーで構成される。③プロセッサはまず、グラップルで伐倒された木の根元をつかんでカッターで枝を除去した後、あらかじめ設定した長さでチェーンソーで玉切りする



①林業歴40年のベテラン技術員の鈴木清さん。右手に持つのは、材木屋からの注文が書いてある「木割表」。左手に持つ「尺棒」で、木の長さを測り、玉切りする

高性能林業機械を活用し  
現場に合わせた効率的な作業を実施